

# あかるく かしこく たくましく

令和5年4月19日 No. 3 文責：校長 佐野紳二

## 気持ちのよいあいさつ

3年ぶりに小笠原小学校に戻ってきて、改めて感じることは、「小笠原小の子どもたちはとてもよくあいさつをする」ということです。

決して前任校の子どもたちがあいさつをしなかったとは言っていません。比較をして言っているわけではなく、あくまでも本校の子どもたちの印象という話だご理解ください。

朝、ウエルシア南の横断歩道のところに立っていると、多くの子が「おはようございます」と声をかけてくれます。中には、横断歩道を渡り終わり、止まってくださった車にお礼のあいさつをしてから改めて私の方に向き直り、「校長先生、おはようございます」と頭を下げられる子もいます。

こちら「〇〇さん、おはようございます」と返してあげたいのですが、大変申し訳ないことにまだ名前を憶えられていません。気持ちはあるのですが、形として表現できず、とても申し訳なく思っています。

私たちが社会生活を営む上で、「あいさつをする」ことはとても重要視されています。以前、話をしたことがある会社の経営者の方は「勉強がちっとくれえできなんでもいいけど、あいさつができん奴は駄目さ！」と、流暢な甲州弁で語ってくださいました。学校でも、さまざまな機会にあいさつをすることの大切さを子どもたちに伝えています。私もこれまでにいくつかの学校に勤務しましたが、児童会（生徒会）活動であいさつ運動に取り組んでいない学校はありませんでしたし、これまでに担任をした子どもたちにも、「あいさつをしよう」ということを常に伝えてきました。もちろん、我が子にも同じような話をしました。

では、なぜこれほどまでに「あいさつをすること」は世の中で大切にされているのでしょうか？あるいは、子どもに「どうしてあいさつをするの？」と聞かれたら、世の大人たちは、子どもたちにどのように説明をしているのでしょうか？そんなことがちょっと気になり、調べてみることにしました。

## あいさつをすると、こんないいことがある

本校に赴任してから半月ちょっと経過しましたが、子どもたちにあいさつの話をする機会はまだ持っていません。前任校で子どもたちにあいさつの話をした時には、「あいさつは、みんなが仲よくなるための魔法の言葉です。」という言い方をしました。また、ある人は「あいさつをするのは、あいさつをした方がしないよりも幸せになれるからだよ。」と教えてくれました。

あいさつをすることの意義やよさについては、いろいろな人がいろいろな説明をしています。その中から、私が「とても上手に説明しているなあー」と思ったものを紹介します。

### 1 感謝を伝えられる

あいさつを通して、相手に感謝を伝えられます。

「感謝」の気持ちを込めてあいさつをすれば、相手にもきっと伝わるはず。心のこもったあいさつは喜ばれるでしょう。相手に感謝すればするだけ、自分にも返ってきます。感謝で溢れた素敵な毎日を過ごせるようになるでしょう。

### 2 存在を認めているということを示せる

「心を開く」ということは、「存在を認めている」ということ。あいさつは、相手がいるのがわかったから「声をかけよう」と思ってするものですよね。逆に、あい



さつしないということは「存在してないかのように扱っている」と示すことにもなりかねません。あいさつは承認欲求を満たす役割も持っているのです。

### 3 仲良くなるきっかけになる

あいさつは、仲良くなるための最初の一步。何回もあいさつすることで、相手もあなたに心を開きやすくなるでしょう。知っている人がいない場所に行くと、あいさつが話すきっかけになったことはありませんか？それはお互いが「この人は私に心を開いてくれたのかも」と思えたのでしょう。仲良くなりたい人に会った時、初対面の人が多い時こそ、積極的にあいさつをおすすめします。あいさつをきっかけに、一生大切にしたい人に会えるかも。

### 4 印象の良さを与えられる

第一印象は持続するとも言われています。あいさつは出会ってすぐするもの。あなたの印象を大きく左右するのです。あいさつには5秒ほどしかかかりません。それでよい印象を与えられて仕事にまで影響するのなら、お得ですね。

### 5 緊張をほぐせる

あいさつには緊張をほぐす力もあります。緊張していてもあいさつをされるとほっとしますし、自分も声を出すことで緊張が解かれるのです。



いかがでしょうか？その他にも、「あいさつをすると、した分だけ相手に（自分の）プラスポイントがたまるから」とか「場の雰囲気がよくなるから」「社会の常識・万国共通のルールだから」なんていう理由を挙げる人もいます。



楯形地区の小中学校は、小中一貫校として昨年からさまざまな取り組みをしています。その中でも特に重視しているのが「かかわる力」を子どもたちに付けていくということです。昨年度の3学期に保護者の皆様に見ていただいた「あやめっ子タイム」は、この「かかわる力」を育成するためのプログラムでもあります。「あいさつ」は、この「かかわる」ためのはじめの一步であり、あいさつをきっかけに人間関係が広がり、深まっていくことがたくさんあると思います。今年の小笠原小学校でも「あいさつ運動」をどんどん進めていきたいと思っています。そして、私自身、子どもたちに「どうしてあいさつをするの？」と聞かれたら、「それはね…」と、自分の言葉できちんと説明できる大人でありたいと思っています。



## 代表委員が決まりました

13日（木）の対面式のあと、代表委員の任命式を行いました。各学級から2名ずつ選ばれた代表委員に、校長から任命書を渡しました。名前を呼ばれたときの返事や、任命書をもらう時の姿勢に「やる気」を感じました。各学級の代表として、学級の意見をまとめたり全校に伝えたりと、たくさんの役割がありますが、ぜひみなさんの「やる気」を大切に、頑張ってもらいたいと思います。



各家庭に配付した学校通信には、代表委員のみなさんの名前を掲載しましたが、ホームページへの掲載は控えさせていただきます。

左の写真は対面式のあとに行われた任命式の様子です。